

短歌

末武 有二 選

沈丁花は春の訪れ告げること花のほどけて香  
り立ちくる  
惣領 島田 廣子

青空に映えて艶めく蠟梅やほのぼのと黄は目  
白を誘ふ  
安永 守住 孝子

冬枯れの落葉の中で楚々と咲くクリスマス  
ローズ春待ち侘びる  
広崎 日野ヒロ子

週三日いこいの里で見守られて友と語るは楽  
しい時間  
田原 永田巳智子

寒の入り南向いたるあぜ路にひなたぼっこか  
タンポポ友に  
惣領 甲斐 道夫

日差し受け花は芽をつけ並び立ち自然に任せ  
来る春を待つ  
宮園 島 みつき

立春に蕾破りて光る穂よ希望湧きあぐねこや  
なぎ見る  
広崎 大原 郁

シネマ見た夜の食事は鍋物よ温かい餅ゆつく  
り食べて  
赤井 永樹 秀子

孫入試手助け何もできないが仏壇拝む朝な夕  
なに  
木山 本田 龍子

麦青く踏み行く人の姿なしローラ回るも風情  
乏しく  
馬水 倉本研一郎

皿洗いたしたよと息子に告げるときありがとう  
とは決まりの返事  
江津 高田美佐子

投稿は、一人一首(句)でお願いします。

俳句

河野 全平 選

初孫のつたい歩きや春近し  
恵方巻福呼ぶ豆と競いけり  
孫たちの名前はおぼろ里帰る

夕暮や猫と細目の雪を見る  
鉄塔に子育てカラスかしましや

年明けや友の訃報に涙かな  
新学期待てる孫のランドセル

新札の写真待たれる春便り  
日溜りは園児らのもの野水仙

ひとりばち大樹の蔭もたんぽぽも  
一句鑑賞

古閑 今村 恒心  
赤井 増岡 伸楯

田原 永田巳智子  
宮園 秋月 充博

広崎 瀬戸サイ子  
惣領 阪口由美子

惣領 野々口トミ子  
木山 友田大公望

熊本市 境 眞木子  
石原慎太郎

川柳

布田川左門 選

『お題』 自由詠

頂上へ「広報ましき」特別賞

領空侵犯スパイ気球を排除せよ

北は大雪南の島は田植かな

トルコ地震へ貧者の一灯送りけり

『お題』 ウクライナ

出口不明コロナウイルスウクライナ

対岸の火事にはあらずウクライナ

悲惨なりテレビが語るウクライナ

コサックの兵の叫びやウクライナ

飯田 山人

アメリカ大統領

爆弾低気圧

熊本地震一同

ロシア正教

NATO諸国

市民虐殺

祖国防衛同盟

次回のお題 「自動運転」または「空とぶ自動車」

投稿は投稿者の住所、電話番号を必ず記入し、役場  
広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。



益城の文化財  
町文化財保護委員会

広崎・堂園・小谷・杉堂

益城にあった  
甲斐有雄の道しるべ

益城町の道路網は時代と共に発  
達し、大きな変化を見せています。  
そんな中にも、古くからある道路  
には、歴史を感じさせるものが  
残っています。

文政12(1829)年〜明治42  
(1909)年、阿蘇郡野尻村尾下  
(現高森町)の甲斐有雄は、石工の  
傍ら石材に文字を彫り込み、県内  
のみならず、隣接する大分県・宮  
崎県の山間地や原野の細い田舎道  
の分岐点に、総計1,900基余  
りの道しるべを設置しました。本  
町でも、その一部が確認されてい  
ます。

1つ目は熊本市との町境(府内古  
閑花立付近)に「右 すなとり」、「左  
ぬやまつ」。2つ目は津森(堂園池  
南)に「右 山みち」、「左 あそみ  
ち」。3つ目は津森(上小谷)に「右  
あそ道」、「左 くま本」とあります。